

現地学習を基幹とした「まちづくりワークショップ」の実践

日本大学 正 会 員 ○西山 孝樹
日本大学 フェロー会員 天野 光一

1. はじめに

わが国では、少子高齢化社会に伴う地方都市の人口減少など、種々の問題が山積しているのが現状である。そのうえ、「まち」の空間は多様であり、多面的・学際的なアプローチが必要である。

そこで、「まちづくり」に携わる総合性の高い技術者を養成するため、筆者らが所属する日本大学理工学部まちづくり工学科が設立された背景がある。

2. ワークショップの実践

そのようななかで、住民間および住民・行政間の合意形成を図るワークショップなどを運営できる実践的な技術を身に付けた人材教育を展開していきたい。

3. 『まちづくりワークショップⅠ』における学び

学部 2 年生の必修科目『まちづくりワークショップ I』では、駿河台キャンパス（東京都千代田区）周辺を対象とし、限定された時間内に多様な意見を集約、結論を導くというファシリテータとしての基礎的な能力を身につけることを目的としている。

4. 『まちづくりワークショップ II』における学び

本稿で述べる 3 年生の必修科目『まちづくりワークショップⅡ』は、**3 章**で示した知識・手法を実在の空間で実践し、対象地における「まち歩き」の実施や「アイスブレイキング」の活用を経験する(表-1)。

実作業では少人数グループを構成し、課題に取り組んだ。ワークショップは、ファシリテータ・住民・行政・店主役を決め、ロールプレイ形式で実施した。さらに、プレゼンテーションスキルを向上させるため、全受講者が一堂に会した成果発表会を開催した。

(1) 東京都板橋区における現地学習

令和元（2019）年度の『まちづくりワークショップⅡ』では137名が受講し、3ヶ所の対象地に出向いた。そのうち、筆者らが担当した図-1の東京都板橋区に所在する「板橋宿不動通り商店街」には、48名が配属された（1班を8名として6班を編成）。

（２）現地学習実施時の工夫

本科目で工夫した点として、仮想空間ではなく実

空間で「ワークショップ」を実施した点にある。その前段として実施した「現地学習」および「現地調査」

表-1 令和元年度『まちづくりワークショップⅡ』の日程

月日	学習内容	活動内容
4/2 (火)	ガイダンス	授業内容の解説・趣旨説明 ・『まちづくりワークショップⅠ』との繋がり
4/20 (土)	直前対策	現地学習に取り組む事前準備【大学内・教室】 ・「個人課題」の出題（対象地の基礎情報を調査） ・調査対象地域の概要、ワークショップで 取り組むねらい、抽出すべき課題等の解説
5/18 (土)	現地学習	調査対象地域の概況説明【板橋地域センター】 ・板橋区都市計画課による現地の課題等 ＜班ごとの作業＞ワークショップのテーマ選定 ・決定したテーマを発表し、全体で共有 ・現地学習（各配役の目線で課題を探索） ＜現地調査の成果を他の班と共有＞ ・現地学習のまとめ
5/19 (日)	調査計画	＜班ごとの作業＞【大学内・製図室】 ・各テーマに沿った課題解決へ向けた方策立案 ＜住民・行政・店主等の役ごとに作業＞ ・ヒアリング・アンケート調査の内容整理
5/25 (土)	現地調査	「調査計画」を実施【板橋こいの家】 ＜住民・行政・店主等の役ごとに作業＞ ・ヒアリング・アンケート調査を実施 ＜班ごとの作業＞ ・各役割で得られた調査結果を持ち寄り、 実現化方策を検討
6/1 (土)	ワーク ショップ	配役ごとの立場で構造化【大学内・製図室】 ＜配役ごとに作業＞ ・現地調査で得られたデータの整理 整理したデータを各班へ持ち帰り活用する ＜班ごとの作業＞（解決の方向性を整理） ・地域の課題と解決の方向性を出し合う ・成果のまとめ（コンセプト、計画提案等）
6/15 (土)	ポスター 作成	＜班ごとの作業＞【大学内・製図室】 コンセプト、計画提案、宣言の整理 ・ポスター（グループ課題）の作成
適宜 実施	ポスター 指導	＜班ごとの作業＞【大学内】 ・進捗状況の確認と指導
7/6 (土)	成果発表会	＜班ごとの作業＞【大学内】 ・ポスターを用いて「問題改善策」等を発表

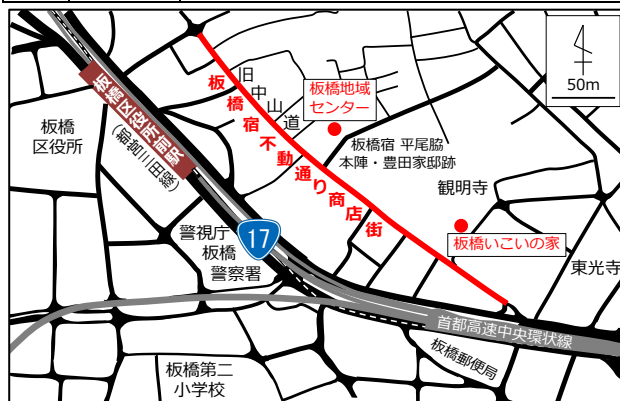


図-1 『まちづくりワークショップⅡ』における
調査対象地の「板橋宿不動通り商店街」

キーワード まちづくり，ワークショップ，アンケート調査

連絡先 〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8-14 日本大学理工学部まちづくり工学科 TEL 03-3259-0482

では、区役所から地元商店街でまちづくりに関わっているメンバーへ連絡を取ってもらい、板橋区役所職員だけではなく、商店街の店主および周辺住民も含めて事前にヒアリングを行った。そのうえで、各学生は住民・行政・店主・ファシリテータ役に分かれ、ロールプレイ形式で地域の課題を解決するためのアイデアを出し合う「ワークショップ」に取り組んだ。

なお、学生が取り組んだワークショップの成果は、地元の『まちづくりニュース』に掲載、配布された。

(3) アンケート調査

本ワークショップ終了後、48名の学生に対して、アンケート調査を実施した（回答率：70.8%）。

a) 教員のみではなく、地元の店主や住民と直接話をできたのは有効であったか？（図-2）

ワークショップを実施する際に、学生が店主や住民などから、直接話をできたことを「有効であった」と回答したのは、全体の94.1%を占めた。

「実際にまち歩きや区の方や住民の方々とお話をしてみても、そこに住んでいる人の考えや想いは、当たり前であるがインターネットで得る情報よりも貴重だということを改めて知ることができました。」とあり、一定の学修効果があったと考えられる。

b) 教員のみではなく、行政（板橋区役所）と直接話をできたのは有効であったか？（図-3）

表-1に示した「現地学習」の冒頭、ワークショップ対象地の概要説明を板橋区職員に説明を依頼した。参加者の82.4%が「有効であった」と回答した。対象地で行われてきた「まちづくり」の施策や課題等を網羅的に聞き取れたことが効果的であったと思われる。

c) ワークショップの成果が地元の『まちづくりニュース』で紹介されたこと、自分たちの活動についてどう感じたか？（図-4）

本ワークショップの取り組みが、地元の『まちづくりニュース』に掲載、配布されたことについて、79.4%の学生が「自信を持った」と回答した。

「今回のワークショップを通して、まちづくりに貢献できたように感じました。これは、まちづくり工学科だからできることであり、ぜひ就活などでも使っていきたいと思います。」

実在の住民や行政と関わりながら、課題解決へ向けた提案を行うことは大変有意義であったと思われる。

d) ワークショップにおける経験や成果物等を就職活動（エントリーシートへの記入や面接時の話題等）で活用しているか？（図-5）

アンケートでは、高評価の項目があった一方、課題が浮き彫りとなった項目もあった。約半数の47.1%の学生が、ワークショップの経験を就職活動で活用していなかった。学科独自の貴重な経験であること、をいかに学生へ伝えていけるかが鍵であるといえる。

その一方で、一連のワークショップをきっかけとして、公務員の立場でまちづくりを担うことに興味を持ち、板橋区が実施した夏季インターンシップへ参加した学生も現れた。実空間でワークショップに取り組んだ一つの成果であるといえる。

5. まとめ

学生がワークショップにおける住民・行政・店主等との意見交換は貴重な体験であると共に、実務へ繋がる第一歩であるといえる。今後も、改善を加えながらワークショップに取り組んでいきたい。

6. 謝辞

本ワークショップを実施するにあたり、板橋区都市整備部都市計画課佐伯和宏氏、板橋宿不動通り商店街の皆様には多大なる協力を得ました。この場をお借りして、感謝申し上げます。

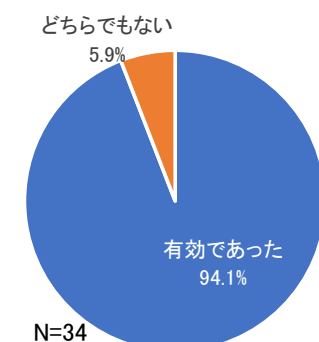


図-2 店主や住民と直接話をしたのは有効だったか

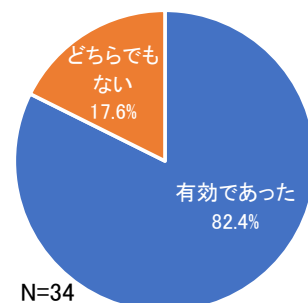


図-3 行政と直接話をしたのは有効だったか

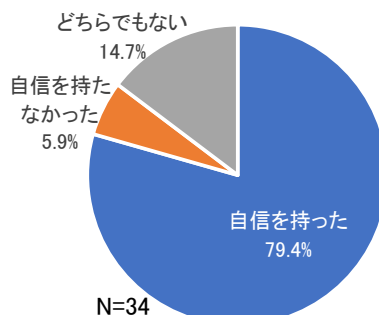


図-4 活動の成果が地元で紹介されたことをどう感じたか

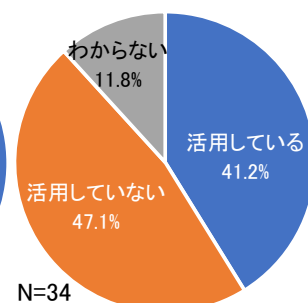


図-5 経験や成果物等を就職活動で活用しているか

参考文献

- 1) 板橋区都市整備部都市計画課都市景観担当：『板橋宿不動通り地区景観まちづくりニュース』、板橋区都市計画課、Vol.7、2019。